



『木を植える人を育てたい』

佐々木 美絵 さん（損害保険ジャパン(株) CSR室 課長）
佐 藤 孝治 さん（公財）SOMPO環境財団 事務局長）

損害保険会社のおもな事業目的は、事故や災害などによって生じた損害を補償すること。その損害保険会社が、なぜ環境 CSRに熱心に取り組まれているのか。1993年から継続してJEEFと協働事業を推進してこられた、損害保険ジャパン(株)・佐々木美絵 課長と(公財)SOMPO環境財団・佐藤孝治 事務局長（以下、敬称略）にチーム M.U.N.K.（※裏表紙参照）がインタビューさせていただきました。



- どのような経緯から、環境 CSR に取り組み始めたのですか。

〈佐々木〉1992年リオ・デ・ジャネイロで開催された地球サミットに当時の社長が参加し、「これからは環境の時代だ！」という認識を持ち帰って、国内の金融機関では初めて“地球環境室”という部署を作ったことが始まりです。その意図は、地球温暖化で将来、台風などの自然災害がより激しくなっていく。そうなれば、保険金支払いという形で会社の業績にも大きく影響するようになるということです。

地球サミットの翌年（1993年）、まだ環境財団は設立されていませんが、本社のCSR事業の一環として「市民のための環境公開講座」がスタートしました。JEEFさんとのお付き合いもこの年から始まっています。

近年、大きな自然災害が続いている。被害を受けられたお客様と直接接する機会を体験すると、改めて保険の大切さや環境問題への取り組みの重要性を感じるようになります。保険事業自体がCSRであるということを実感しますね。

- 御社の CSR 活動の強みや環境財団の特徴を教えていただけますか。

〈佐々木〉一番の強みは、長きにわたってNPO/NGOと協働事業を継続実施してきたこと。そして金融機関の中では、他の会社に先駆けて環境 CSR に取り組み始めたこと

ですね。

〈佐藤〉SOMPO環境財団は、損害保険ジャパン(株)から寄付金を受けて1999年に設立されました。その目的は“木を植える人を育てたい”、つまり自分たちで木を植えるのではなく、“人を育てる”ことを軸とした『環境教育』に注力して取り組んでいこうとするものです。CSR活動における重点アプローチの1つに、“人材育成を意識したNPO/NGOなどをはじめとする様々なステークホルダーとの連携”を掲げています。「市民のための環境公開講座」はその一つの事例になります。

- では、その「市民のための環境公開講座」の概要を教えてください。

〈佐藤〉通年講座として年9回、これらはセミナー形式です。さらに、実践的な場として特別講座を1～2回実施しています。持続可能な社会づくりにむけて、広く環境



▲(特別講座)JEEF職員が講師

問題を捉え、無関心層、関心層、知識層など様々な人々に幅広く情報を発信して、それが行動につながるキッカケになっていくことを目指しています。また、若者にもたくさん来ていただきたいので、環境活動に関心の高い芸人さんやテレビにもよく出演されている著名な先生にゲスト講師をお願いするなど、工夫を凝らしています。26年間で400回以上のセミナーや特別講座を開催してきました。

- これだけ長く続けてこられた秘訣を教えていただけますか。

〈佐々木〉1992年以降、歴代の経営トップがCSRや環境問題への理解、重要性を一貫して持ち続けてこられたことが長く続けられた大きな要因であると思います。

〈佐藤〉それにトップが講座やイベントに参加してくれるようになると、社員も参加してみようという意識が高まっていますね。

- 年9回の講座はどのように企画していますか。

〈佐藤〉11月に講座の最終回が終わり、すぐに反省会を開きます。その後、企画委員会をJEEFさんとCSR室、環境財団の3社で翌2月までに3回くらい実施します。次年度のテーマ、講師の選定を喧々諤々と若手メンバーを中心になって意見交換し合います。そして4月には講師依頼まで完了します。

- 最後に、JEEFに期待していることを教えてください。

〈佐々木〉「市民のための環境公開講座」については、講師やテーマ設定の面で、JEEFさんの人脈・知見が活きてくるところです。私たち企業サイドからすると、一般の方に環境問題のどの部分を広めていくことが価値なのか、専門性を持たない企業人では分からぬところが多いです。今何が旬の話題なのか、あるいは今何を一般的な市民の方に発信していくべきテーマなのか、というアイデアはJEEFさんに頼る部分が大きいですね。そういう背景があって、この講座が成り立っていると思っています。企業がNPO/NGOと協働する意味って、そこにあるのですよね。私たち企業だけでは見つけられない社会課題を、協働することによって間接的に課題解決にアプローチができると考えています。

〈佐藤〉講座の形式や進行面の技術もJEEFさんには期待しています。特に若い方は、参加型のワークショップを求めるケースが多く、進行役のファシリテーション技術

などは期待する大きなところです。

また集客面でも、JEEFさんは環境に关心のある独自の顧客リストを持っているので、そのルートでイベント情報を発信してもらうことも重要です。講師への依頼も企業からでなく、JEEFさん経由で依頼してもらったほうが何かとスムーズな事が多いですね。



▲(セミナー)JEEF職員がファシリテーター

環境公開講座と並んでもう一つの柱である「CSO ラーニング制度」という事業があります。

大学生・大学院生を8ヶ月間、NPO/NGOに派遣し、インターン活動していただく取り組みで約20年続けてきましたが、今年の2月からはインドネシアでも開始しました。

インドネシアをはじめ海外での活動実績が豊富で、かつ日本人スタッフが駐在しているNGO、更には日本でCSOラーニング制度を受け入れているNGOとしてJEEFさんに期待するところは大きいです。

近年、社会課題が多様化し学生にとっては興味・関心の選択肢が広がっていると思いますが、環境への関心をもっともっと喚起していきたいですね。

- ありがとうございました。

(インタビュー：2019年10月)

